

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 31 年 3 月 15 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103544		
法人名	(有) 藤山商事		
事業所名	グループホーム あい		
所在地	〒732-0043 広島市東区東山15番2号 (電話) 082-264-1006		
自己評価作成日	平成31年1月	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=3470103544-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島市安芸区中野東4丁目11番13号
訪問調査日	平成31年3月15日（金）

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

当施設は閑静な小高い場所にありグループホームの窓から新幹線がよく見えます。新型の新幹線も良く見る事が出来大変喜ばれています。夜になると市内を一望できる夜景がとても綺麗です。グループホームの目の前には四季を感じさせてくれる公園があります。公園で楽しそうに遊ぶ子供達の声や姿を見て目を細めたり、可愛い犬の散歩をみたりと大変喜ばれております。当グループホームと病院は併設されており週3回医師と看護師の往診があり、日頃の体調管理をしっかりと行っております。医療と施設が情報共有しており、たとえば御容態が悪くなられた時には24時間体制で医師と看護師が連携し、速やか対応をしてもらい安心できる生活を送っていただける様にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

閑静な住宅街の高台に位置するグループホームあいは、市内中心部に近く、新幹線や大型商業施設など市内が一望でき、利便性の良い場所に位置しています。施設の前の公園は四季の移り変わりを感じられる樹木があり春は桜、秋は紅葉と子供達や近隣住民の方が訪れ利用者の楽しみな散歩コースになっています。施設は病院と併設しており夜間の緊急時、医師、看護師による指示を受け、24時間対応の医療体制で、健康管理ができ安心した生活ができます。責任者は研究、研修を重ね、常に利用者の状態に合わせた方針を語り、インターネット資料や実例を挙げ、全職員で方針を共有し、スキルアップに繋がるケアを目指している。実際、ケアはきめ細かく様々な工夫や配慮、研究が見られ、利用者一人ひとりに寄り添い利用者のペースに合わせた環境作りに努めているグループホームです。

グループホーム あい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎日の朝の申し送り後にその日の出勤職員と夜勤明けの職員と事業所の理念を大きな声で唱和し、夜勤者の労いと職員のスタートのけじめをつけて実践につなげている。	日勤、夜勤の申し送りの際、グループホームあいの理念(明日のことを思い患うことより今日一日を輝いて)を唱和し次の仕事に取り組む時、ねぎらいの言葉をかけ実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎月一回、子供たちの遊び場でもある目の前の公園の清掃を行っており、地域との交流の場として少しでも地域の皆様に貢献できるように心掛けている。	施設の前の公園に子供達や近隣の方が集まる場所なので、清掃を職員で毎月一回している。地域の秋祭りにはお神輿がやって来て、利用者は喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所の中に広島市認知症アドバイザー登録をしている職員がおり、認知症に悩まれている家族様の相談にのったりアドバイスをしたりして家族様の悩みを軽減するようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は奇数月に必ず行っている。家族のいらっしゃる方が多いので参加はほとんどないが、包括支援センターの方の参考と意見を聞いたりして情報交換しながら行っている。	運営推進会議は、2か月に1回二葉包括支援センター職員、統括責任者、管理者、介護職員で開催され施設の行事の実施状況、現状報告を行いインフルエンザ予防対策なども議題になっている。出席者からの情報、提案を聞いている。	今年地域の敬老会が集会所であり挨拶に行き地域の方、民生委員さんに運営推進会議の出席をお願いされた。今後交流されることを期待します
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の報告書を奇数月には送付しており、グループホームあいの現況を知ってもらっている。又、市とは事業所として分からない事があると出来る限り役所に伺い相談にのってもらいながらコミュニケーションを取っていくよう心掛けている。	市役所本庁、区役所には入居の際の契約関係、生活保護者の入居の書類作成、介護保険など分からない事があればその都度質問して説明を受けている。運営推進会議の報告書を送り施設の事を知ってもらい関係作りをしている	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束0」を職員一同頭に入れ、一生懸命ケアに取り組んでいる。又、施設内研修においてしっかり勉強をしてスキルアップをする様に心掛けている。	拘束については身体拘束委員会で毎月話し合い、取り組んでいる。インターネットからの資料を集め、事例をあげ全職員に繰り返し研修を行い勉強をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	当施設での虐待は絶対はないが、管理職や職員は高齢者虐待防止法等について市の研修を受け学ぶ機会を持ち、スタッフ間で常に情報を交換している。身体チェックは入浴時にボディチェックして、虐待を見逃さない様、注意をしている。		

グループホーム あい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者とユニットリーダーは「成年後見人の制度」の研修を受け個人個人の必要性を考えながら関係者と話し合い支援をしていくようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約については専門的な知識を持った職員が十分説明を行い、御家族の理解・納得をしていただいた上で同意の署名・押印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御家族の面会時や電話連絡した際に御意見と要望を統括責任者や管理者、ユニットリーダーがお聞きし、それらを運営に反映出来る様にしている。	家族が面会に来られた際には、家族の意見や要望を聞き、日々の利用者の健康状態をお知らせし、安心してもらえるよう接点を持ち家族の思いに接している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者は統括責任者と管理者、ユニットリーダーの意見や提案をまとめたものを基にしっかりと耳を傾け運営に役立っている。	毎月一回ユニット会議で話し合いがされ、職員の多くの意見や提案はその都度聞き、運営に反映させている。働きやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	ストレスの溜まりやすい職業である為、リフレッシュ休暇を取りやすい様に代表者は配慮している。又、残業もほとんどなく賞与を年3回支給し、職員のモチベーションを上げ、自ら意欲的に働ける環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月に一度ある「ユニット会議」にて統括責任者が施設内研修をしており、忘れてしまう事の多い基本をもう一度分かりやすい説明と研修資料を元に振り返りながらのスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	代表者は統括責任者や管理者が同業者との交流を大切にし質を向上させていく為の会議での取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	御本人の不安と困っていることを傾聴しながら、又御本人の不安を取り除く様職員は側に寄り添い信頼関係を作るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	御家族の生活をしていくにおいて不安を消滅し出来るだけ要望をお聞きする様に御家族との関係作りをしていくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアプランに基づいて支援をしていき日々の生活の中に組み入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「ゆっくりとゆったり」をモットーとした施設の中で、生活のリズム作りを職員と共に作り上げていき、疑似家族ではあるが、コミュニケーションをしっかりと取り、より近い関係が出来る様に心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	御家族に入居者様の日々の生活状況をしっかりと説明しながらコミュニケーションを取りながら、御家族様の不安を取り除き、安心していただける様入居者様を支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	御近所の方やお友達、親戚の方が訪問しやすい環境作りを目指している。	家族、近隣の方の面会があり訪問しやすい雰囲気作りに努めている。面会の際はお茶を差し入れ、ゆっくりしてもらえよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤独にならない様にしっかり職員が声掛けをし、新しい入居者様が自然に輪の中に入れる様、職員全員で支援に努めます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了しても、本人、御家族の御相談に応じられる様、アドバイザーを中心に支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	施設での生活に慣れていただく中で、御自分が望まれている生活を、許す限りして頂ける様に職員は検討しながら希望に沿って生活出来る様にしている。	日々の生活の中で利用者の希望、意向が出た場合、その都度検討し、利用者の望まれる生活が送れるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	その人の生きて来られた人生の中で一番心地良い生活環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その人に合った一日の過ごし方を作れる様努めて、職員一同いつも検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	一か月に一回のユニット会議で個人個人の介護計画書をモニタリング話し合って、より良い介護計画書を作成するようにしている。	1ヶ月に一回モニタリングをし、ユニット会議で話し合い、家族の要望を把握し、ケース記録に残しケアマネジャーと共に介護計画を作成される。変化があればその都度見直し、4ヶ月に一回の見直しで介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子は介護記録を読み返しながら日々の生活状況を把握・チェックし職員間の情報を共有し介助に役立てる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	認知症でレベルが下がってきても御本人が不安にならない様声掛けをして、孤独にならない様、気配りをし支援する様取り組みをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を把握しながら、しっかりとした支援をする。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	母体である病院の医師と正看の往診が週3回あり、身体的な心配もなく安心して生活を送れる様、少しの体調の変化がある時も医師に報告し、適切な医療が受けられる様に支援を行っている。	利用者全員が母体の病院の医師、看護師の週3回の往診で健康管理がされており、初期段階で発見する事ができ多くが大事に至っていない。母体の病院が対応できない場合は緊急で専門医に入院される場合もある。専門医で受診される場合は家族、職員で対応し、歯科医は毎週木曜日に来診され安心して医療体制ができています。	

グループホーム あい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の生活の中で特変があった場合、併設している病棟ナースに報告し、また相談しながら医師との連携を取り何事も早急に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設している病棟に入院される事があるが、職員がお会いし顔を見に行く事によって入居者様の不安が取り除かれ病院での情報交換もしっかりと行う事が出来ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に近づいている場合は家族と御本人の思いをしっかりと聞いている。職員一同がその思いに沿った支援ができる様、努めている。	入居時、重度化された場合のあり方について、家族に説明を行っている。家族、利用者の意向を尊重し、重度化された場合、延命、看取りについて再度話し合い希望を聞き、その中で職員は最良の支援ができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故があった場合もすぐに隣の病棟の看護師と医師に連絡し、大事に至らない様にしている。施設内研修をしたマニュアルを職員は頭に入れている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災管理者研修を受け、安全に導く事が出来る様にしている。又、6か月に一回の防災訓練と、年に一回消防署の方に指導して頂きながら安全についてを学んでいる。災害等は市が指定している安全な場所へ誘導する事を職員全員が頭に入れている。	年に2回の避難訓練、防災訓練を行い昼夜を想定し、消防署、防災管理者の指導の下に病院と一緒に行われている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格を尊重しプライドを傷つけない様に配慮しながら、職員はいつも気を使いながら声掛けを行っている。	一人ひとりの人格を尊重しプライドを傷つけない声掛けをし、接遇に気を付けている。特に排泄、入浴の際は配慮がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	管理職の上司が個々に傾聴し、希望や悩みをゆっくりじっくり聞く事により、安心した生活ができ、自己決定が出来る様にし不安がない様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の業務進行型でなく、その人に合ったペースで「ゆっくりゆったり」との生活をして頂き、入居者様のニーズに応じていく様にする。		

グループホーム あい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	御自分の気に入られた洋服を職員と選ばれ、着ていただく様支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	日々の楽しみでもある食事はその人に合わせた普通食、キザミ食で汁のトロミを付けながら提供している。献立についての説明もして、職員が見守る中で落ち着いて食事ができる様、クラシックを聴きながら食事をしていただいている。	食事は食材業者によるレトルト調理で利用者の状態に応じた刻み食、お粥、とろみ食等が提供される。年間の行事食も多く時には、お好み焼きを作っている。、おやつ作りではホットケーキを作り喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の水分量、摂取量をチェックし職員全員が分かる様に介護記録と一緒にファイリングしている。水分・食事量・摂取量が少ない場合はその人に応じたゼリーと高カロリー食品等を飲んで頂き補助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	職員が入居者様一人一人を洗面所にお連れして口腔ケアを実施している。最後の仕上げは職員がしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人一人の排泄状況を職員全員が把握し、出来るだけトイレ誘導をし二人介助で自立に向けた支援に努めている。	夜間オムツ使用の方は昼間はトイレ誘導し、出来るだけトイレで自然な排泄をされるよう支援している。排泄記録を利用して朝の便の形状をみて排便コントロールをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	週三回のドクター往診の際に、必ず排泄状況、便の形状を報告し、ドクターの指示に応じ排便コントロールをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	男性、女性と入浴日を入居者様と決めているが、御自分の入浴日をカレンダーに記入し、御自分で入浴日を把握し忘れない様にされている。又、職員も声掛けをし入浴日を知らせている。	入浴は週2回としてゆっくり入られ、職員は利用者と会話し、利用者の気持ちを聞く事のできる時でもある。状況によってはシャワー浴、清拭、足浴等の支援をされている。特殊浴槽があり身体の不自由な方にとってはゆっくり楽しむ事が出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ベッドで休みたい時は少し横になっていただき、夜間は夜勤者が二時間毎に訪室し、安否確認を行い安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬介助は大きな声で「○○様○月○日の朝・昼・夕のお薬です」と言って服薬、又職員も誤薬予防の為に必ず確認している。口の中に薬を入れて「ゴクン確認」をし、口の中に残りそうな入居者様には口の中を確認し、管理している。		

グループホーム あい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ゴミ入れを作ってもらったり、ビニール袋を畳んでもらったりして頂き、苦痛にならない程度に手伝ってもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	春秋の天気の良い日はグループホームの入居者様と一緒に子供が遊ぶ公園で散歩する様心掛けている。子供達や散歩している犬を見て、目を細められる場面も多くあり心が和む様に支援している。	天気の良い日には公園に散歩に行き、子供達を見て微笑まれたり、春には縮景園にお弁当を持って花見に行き喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外出時にお小遣いの中で買い物をして頂ける様、職員と一緒に考えて欲しい物を御自分で支払って買い物をして頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要望があれば電話を掛けたり手紙のやり取りができる様準備をし支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングの窓から人が歩く姿や新幹線が通っていくのを見たり、昔の事を思い出しながらお話をされたり、新しい新幹線を見て喜ばれたり、いつも職員が側に居て傾聴する事を心掛けている。	リビングは明るく開放感があり、出窓からの暖かい日が差し込み、利用者はそれぞれテレビを見たり、談話したり思い思いに過ごされている場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ほとんど一日の過ごす時間がリビングが多く、テレビやぬり絵等御自分の好きなように過ごされている。疲れた時は御自分の居室に入室しベッドに横になられ、御自分の好きなように生活されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	一人一人の個室で御自分の好きな様に気に入った物を持ち込まれ、落ち着いて生活ができるよう居室に時々職員がおじゃまし話を傾聴している。	家庭で使われていた馴染みの小物や作品、時計、人形、洋服等が持ち込まれ居心地よく安心して過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレが共同で1フロアーに車イスが入る程の大きなトイレが4室ある。ゆったりとした所で排泄が出来て安全であり貼り紙でトイレの場所が分かる様にしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム あい

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム あい

作成日 平成 31 年 3 月 16 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	職員のスキルアップの 為の施設内研修の強化	それぞれの職員が統一 ケアを行う事により 支援を手厚くし職員の スキルアップにつなげ る様にする	1ヶ月1回のユニット会 議で研修を行い、又実 務をしっかり身につけ る様にしスキルアップ につなげる	12ヶ月
2	46	外出の計画をしていて も雨が降ったり、体調 が悪くなって計画通り に進まなかった	室内で出来るレクレ ーションを増やして楽し んでもらう様にする	入居者様と一緒に楽し んでいただける様計画 をたてて色々やってみ る様にする	12ヶ月
3	13				
4					
5	46				
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。